

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

2 中期的目標

1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上 ～知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む

(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。

- ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ちの定着・改善に取り組む。
- イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。

※年間遅刻者数を令和5年度には10%減を実現する。(H30:24,506回、R1:2,750回、R2:3,109回)

(2) 支援教育の充実でいじめのない学校づくりを推進する。

- ア 教育支援委員会、担任、保健室など生徒情報の共有と相談体制を充実させ、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
- イ 「ポジティブ行動支援」による「ほめる。認める。励ます。」を充実させ、笑顔を増やす。
- ウ 教育支援カード、個別の支援計画等を活用する。個別支援については、「合理的配慮」の観点から具体的な方法を講じる。
- エ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアコーディネーターの活用継続とともに、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実させる。子ども家庭センターなどとの連携により生徒支援をさらに充実させる。
- オ いじめの防止、早期発見に努めるとともに、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することにより、他人を思いやる気持ちを育成し、人権感覚を身につけさせる。

※学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」前年度以上を維持。(H30:75.6%、R1:73.9%、R2:75.6%)

2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ ～自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む

(1) わかる授業をめざし、授業力の向上に取り組む。

- ア 10年研チーム(10年経験者、ミドルリーダー)を核とした、日常的な自主研修から授業力向上につなげる。
- イ ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業、ICTを活用した授業を構築し、生徒の学習意欲をUPさせる。
- ウ オンライン学習、タブレットを活用した学習について、研修を充実させ向上を図る。
- エ 他の府立高校、支援学校、近隣市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、教職員研修を充実させる。
- オ 教員相互の授業見学を推進する。

※ 学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」を令和5年度には75%以上をめざす。(H30:60.3%、R1:70.5%、R2:73.4%)

(2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。

- ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。1・2年からガイダンスを行い、職業観を育成し、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。また、学力向上を推進するための組織的な取り組みを行う。
 - イ キャリアパスポート活用を、令和5年度までに充実させる。
 - ウ 漢字検定や毎日パソコンコンクールについて引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。
 - エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。
- ※ 卒業時の進路決定者を令和5年度に97%にする。(H30:95.8%、R1:96.0%、R2:97.0%)
- ※ 生徒・保護者の進路指導満足度を令和5年度にともに85%以上にする。
(生徒・保護者 H30:81.5%・76.6%、R1:83.4%・76.3%、R2:89.9%・83.0%)
- ※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。

3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実 ～真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む

- ア 部活動・行事の一層の充実を図るとともに、環境整備に努める。また、部活動加入率を令和5年度には45%以上をめざす。(H30:42.9%、R1:35.1%、R2:40.6%)
 - イ 楽しい行事の実施を実現し、運営においても経験を積むことができるよう指導する。
 - ウ 部活動や生徒会活動などで中学校や地域との交流、地域貢献することを推進する。
 - エ 学校説明会・体験入学、中学校・塾などへの訪問活動で本校の良さを発信する。学校ホームページ(ブログなど)、広報グッズ(マスコットなど)、メールマガジン等を充実させ、積極的に情報を発信する。PTAと連携し、保護者への情報発信を充実させる。
- ※学校行事への肯定値を前年度以上に向上させる。(H30:52.0%、R1:53.0%、R2:71.8%)

4. 共生推進教室の一層の充実とインクルーシブな学校づくりをすすめる。

- ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒に「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。
- イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が協力し、関係機関との連携で共生生徒の就労実現と自立に向けた取組みをすすめる。

5. 「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり

- ア 教職員相互の信頼・意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、「やってみよう」の精神でアイデア発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。「10年研チーム」には経験年数の少ない教員のメンターとして活躍してもらう。
- イ 働き方改革を推進し、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回答率 生徒：99.2% 保護者：11.1% 教員：100%</p> <p>①学校運営・環境 「他校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」では1.5ポイント増加。スポーツ科学専門コースや共生推進教室をはじめとして、今後も引き続き、本校の特色について明確化することを重点におき、より多くの中学校に本校の魅力を伝えていきたい。</p> <p>②教育相談 教育支援・教育相談体制については、肯定的回答が多くみられた。今後も、生徒に寄り添った支援を心がけ、より一層安全・安心な学校づくりに努める。人権学習については、3年間を見通した授業計画を実施し、「人権」に対する意識が着実に高まっている。今後も他者の存在に寛容であり、多様な価値観を互いに認め合って生きていけるような取り組みを充実させていく。</p> <p>③学校生活 保護者対象「学校行事は楽しく行えるように工夫している」が大幅減少となった。一方で教員対象「学校行事が丁寧に取り組まれている」が近年減少傾向にあったが、横ばいとなった。コロナ禍で行事が延期や中止となったことが影響していると考えられる。引き続き安全対策を講じながら、生徒主体の学校行事や学級運営を推進することで、より生徒が達成感や充実感を得ることができるようにする。</p> <p>④学習・体験 学習に対して、生徒の肯定的な意見が増加しているのに対して、教職員にとっては授業の工夫に課題を感じている。生徒が授業を理解し、主体的に学習へと向かう授業を展開できるように努めたい。</p> <p>⑤進路指導・生活指導 進路指導においては、概ね高い水準で推移している。生徒指導においては、生徒対象「学校生活についての先生の指導は納得できる」67.6%に対して、「自分は遅刻や頭髪等の生徒指導上のルールを守っている」90.2%となっており、約22ポイントの乖離が生じている。つまり、「納得していないがルールとして守っている」生徒が存在していることになる。これまで以上に納得、共感が得られるような指導が必要である。</p> <p>⑥特別活動・その他 部活動に関しては、生徒・保護者・教職員いずれも高い意識をもって取り組んでいることが分かる。「家庭の連絡、意思疎通」では、保護者75.3%、教職員96.7%と大きな開きがある。情報提供の内容や頻度について考えながら、メールマガジンやホームページを活用し、共通の認識が持てるようにする。また、保護者が公開授業や学校行事に参加しやすい学校となるためにPTA活動や学校行事を充実させていく。</p>	<p>第1回（6月25日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒数減少に関する問題意識を共有 スクールカウンセラー等の専門家を確保するための方策について情報交換 コロナウイルス感染防止対策下での部活動状況について情報交換 <p>第2回（11月19日）</p> <p>① 個人端末(GIGA スクール)</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用状況は、中学校も手探りで活用方法を模索している段階。 中学校では、登校途中で個人端末を落下させ、液晶が割れるという事案があり、保護用のケースを配布している。 <p>② 観点別評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校では、なかなか進んでいないのが実情。 大学でも観点別評価を導入している。 <p>③ オンライン授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学では、オンライン授業を普段から取り入れているが、学生の表情が分かりにくく、学生の反応を講義内容に反映しにくい。また、学生に意見を求めると、当たり障りの無いおとなしい発言しか出ない。 顔見せを拒否する大学生が少なからずいる。 ホワイトボードを使用しにくいので工夫が必要。 卒業生が授業に参加できるメリットがある（要望があれば招待のURLを送付）。 <p>④ 授業見学の感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> 40人が教室にいると狭く感じられ圧迫感がある。クラス人数を減らせないものか。 <p>第3回（2月18日）</p> <p>①新型コロナウイルス対応</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で思うような学校経営が行えない中、「ポジティブ行動支援」や「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を始め、子ども達を支える取り組みを多くしている。 コロナ禍でも教育支援・相談体制について肯定的な回答が多かったのは、先生が生徒に寄り添っているからだと感じた。 楽しみにしている行事が減っていく中、授業に前向きに取り組んでいるのは良い。 コロナ禍の中、行事一つとっても思うような学校運営が行えず、ご苦労されたと思う。そのような中、「ポジティブ行動支援」や「課題を抱える生徒フォローアップ事業」をはじめ、子ども達を支える取り組みをたくさんしていただいたと感じる。 <p>②学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で学年ごとの分析があれば、学年の傾向がつかめるのではないか。 コロナ禍の中、教育支援・相談体制について肯定的な回答が多かったことは、先生方が生徒に寄り添っているからだと感じた。 <p>③新年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も子ども達の成長に向け、取り組みをお願いする。中学校目線の意見等で協力させていただく。 日々の生活の中で生徒も先生も少しでも楽しみや笑い、喜びがあることは、今の社会の中でとても大切なことだと思う。 混乱の中でも今日をどのように過ごすのか、高校生活が少しでもより良いものになるよう努力されている先生方、生徒たちの頑張りに私も仕事を頑張ろうと思います。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度]	自己評価
1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上	(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ運動・服装頭髪指導。 イ 学校と家庭が連携した、遅刻指導。	(1) ア 社会人基礎力の育成のため、生徒指導の目的を理解させたうえで、あらゆる場面で「あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ち」などの基本的生活習慣の定着・改善を推進する。 全職員による早朝の服装頭髪指導(月2回)を継続する。 イ 遅刻カード、早朝登校、保護者との連携などを取り入れた遅刻指導をさらに改善し推進する。	(1) ア・全職員による毎朝の挨拶運動と服装頭髪指導(月2回)において、生徒への声掛けを充実する。 ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」前年度以上を維持。[64.0%] イ・年間延べ遅刻者数2,500回未満。[3,109回]	(1) ア・登校時の職員の見守り、服装頭髪指導(月2回実施)により高校生らしい身だしなみを保つことができた。(○) ・学校教育自己診断肯定値67.6%(◎) イ・年間延べ遅刻件数2,937回(△)
	(2) いじめのない学校づくり ア 相談体制の充実。 イ 「ポジティブ行動支援」による指導。 ウ スクールカウンセラーなど、外部人材・外部機関の活用。 エ いじめの防止。	(2) ア 教育支援委員会、担任会、保健室等の間で生徒情報の把握を速やかに行い、支援内容などを、職員会議等において全教員で共有化する。 イ 「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やす。 ウ SC、SSW、CC、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」など外部人材の協力を得て、専門的知識に基づいた生徒支援を充実させる。子ども家庭センター等の外部機関との連携で生徒支援を組織的に行う。 エ 人権教育推進委員会、いじめ防止・対策委員会を中心に、「いじめアンケート」を活用し、いじめ防止、早期発見、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することを継続する。	(2) ア・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」75%以上維持。[75.6%] ウ・外部機関との連携を学期に1回以上実施。 エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」前年度以上を維持。[78.9%] ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」前年度以上を維持。[74.7%]	(2) ア・学校教育自己診断肯定値82.8%(◎) イ・教員の否定から入る指導が減り、褒めるところをまず探す習慣が育成されている。 ウ・SCとフォローアップ事業の居場所カフェを通し、安心な居場所の提供ができた。また、SSWによる教員研修3回開催、各地域の児童相談所、法務少年支援センターと連携した生徒指導を実施。(○) エ・学校教育自己診断肯定値82.5%(◎) ・学校教育自己診断肯定値79.4%(◎)

府立信太高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ</p>	<p>(1) 授業力の向上。</p> <p>ア 10年研チームを中心とした授業力向上。</p> <p>イ ユニバーサルデザイン、ICTを活用した授業構築。</p> <p>ウ オンライン学習・タブレット学習の研修</p> <p>エ 公開授業、教職員研修を充実させる。</p> <p>オ 教員相互の授業見学を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 10年研チームが10年経験者研修と連動させ、研究授業や課題解決型自主研修などを主催し授業力向上を図る。</p> <p>イ ユニバーサルデザイン(UD)、ICTを意識した授業力向上のための交流を他校と行う。UD授業推進リーダーの育成。</p> <p>ウ 校内研修の充実と、先進校の調査研究を行う。</p> <p>エ 泉大津市教委との連携事業による公開授業・研究授業の実施および参加。</p> <p>オ 公開授業期間に相互見学を推奨。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」70%以上を維持。[73.4%]</p> <p>・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上を維持。[85.9%]</p> <p>・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.2以上。[第1回3.28 第2回3.19]</p> <p>・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.2以上。[第1回3.31 第2回3.22]</p> <p>イ・授業力向上のための他校交流を、1回以上実施。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断肯定値75.6% (◎)</p> <p>・学校教育自己診断肯定値89.4% (◎)</p> <p>・授業アンケート「生徒の興味・関心」[第1回3.28 第2回3.27] (◎)</p> <p>・授業アンケート「生徒の知識・技能」[第1回3.31 第2回3.34] (◎)</p> <p>イ・ICT機器の活用授業が全体に浸透し授業改善に対する意識が高まっている。</p> <p>ウ・オンライン授業自主研修複数回開催</p> <p>エ・他校から授業見学受け入れ、中学校へ出前授業実施。</p> <p>オ・教員相互授業見学実施。</p>
	<p>(2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。</p> <p>ア 3年間を見通したキャリア教育。</p> <p>イ キャリアパスポート活用の研究。</p> <p>ウ 全生徒の資格取得の推進。</p> <p>エ スポーツ科学専門コースの充実。</p>	<p>(2)</p> <p>ア 進路指導は、2年3学期を3年0学期と位置づけ3年1学期のスタートをより良いものにする。</p> <p>・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、職業観を育成する。</p> <p>・「学力生活実態調査」「基礎学力調査」の継続的な活用を行う。</p> <p>イ キャリアパスポートを活用するための調査研究を行う。</p> <p>ウ 漢字検定、毎日パソコンコンクールの全員受験を継続するとともに、英検の受験も推進する。</p> <p>エ 専門コースとしての進路実現を強化する。学んだ技術や戦術、練習に取り組む姿勢などを、支援学校との交流で伝承する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・卒業時の進路決定率95%以上。[97.0%]</p> <p>・生徒・保護者の進路指導満足度ともに80%以上維持。[生徒89.9%、保護者83.0%]</p> <p>・就職内定率、100%の継続</p> <p>・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。[46.2%]</p> <p>イ・検討委員会、勉強会を実施。</p> <p>ウ・漢字検定3級以上の合格率前年度以上[30.8%]</p> <p>エ・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「興味・関心」3.70以上。[第1回3.62 第2回3.54]</p> <p>・スポーツ科学専門コースの授業アンケートの「知識・技能」3.70以上。[第1回3.63 第2回3.52]</p>	<p>(2)</p> <p>ア・卒業時の進路決定率。[100%] (◎)</p> <p>・生徒・保護者の進路指導満足度[生徒88.5%、保護者79.1%] (△)</p> <p>・キャリアカウンセラーの専門知識を活用した進路相談で就職希望者決定率100%達成 (○)</p> <p>・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」[51.4%] (一)</p> <p>取り組みそのものがコロナ禍で実施できなかった</p> <p>イ・現在進行形。計画しながら実施している。(○)</p> <p>ウ・漢字検定3級以上の合格率[19.4%] (△)</p> <p>エ・授業アンケート「興味・関心」。3.6 [第1回3.6 第2回3.6] (△)</p> <p>・授業アンケート「知識・技能」3.65[第1回3.7 第2回3.6] (△)</p>

府立信太高等学校

<p style="text-align: center;">3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実</p>	<p>ア 部活動・行事の一層の充実、環境整備。</p> <p>イ 行事を楽しみ、運営経験を積むことができるよう指導する。</p> <p>ウ 部活動などで中学校や地域との交流を推進する。</p> <p>エ 積極的な情報発信とPTAとの連携。</p>	<p>ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的活動推進のための、大学や専門学校による出前講座の実施。 <p>イ 楽しむ行事の実施（合唱コンクール、クラスマッチ）。学年規模の行事運営経験を積ませ、学校規模の大きな行事運営能力を育成する。</p> <p>ウ 近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動を継続。 ・スポーツ科学専門コースによる支援学校交流。（再掲） <p>エ 中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ・ブログの充実、学校案内リーフレットの改訂、広報グッズの活用により、積極的に情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと協力し保護者へ信太の取組み情報発信 	<p>ア・1年部活動加入率45%以上。</p> <p>[1年47%、全学年40.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上維持。[77.1%] ・出前講座を1回以上実施。 <p>イ・学校教育自己診断での「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」前年度以上に。[71.8%]</p> <p>ウ・地域行事参加年間5回以上。[0回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動年間10回以上。[0回] ・中学生対象部活動行事年間10回以上。[0回] <p>エ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度100%を維持。[100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問1・3年生の出身校のべ100校以上。[79校] ・ブログ更新を平均して月に2回以上 	<p>ア・1年部活動加入率53%（全学年45%）(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断肯定値75.6% (○) ・近畿ポリテク、南海福祉看護専門学校、近畿医療専門学校の出前講座受講。(○) <p>イ・学校教育自己診断肯定値68.9% コロナ禍により中止や縮小の影響があったものの前年度とほぼ同水準を維持できた。(○)</p> <p>ウ・地域行事参加年間5回以上。[0回] コロナ禍(一)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動年間10回以上。[0回] コロナ禍(一) ・中学生対象部活動行事年間10回以上。[10回] 各部活動単位で実施。(○) <p>エ・校内での学校説明会年5回実施、体験入学満足度100%を維持。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問1・3年生の出身校のべ100校以上。[0校]資料送付に代替(一) ・部活動ブログ、学年通信、校長ブログと学校生活がイメージできるように平均で月に2本発信。(○)
<p style="text-align: center;">4. 共生推進教室の充実</p>	<p>ア すべての生徒と「ともに学び、友と育つ」教育の推進。</p> <p>イ 共生生徒の自立に向けた取組みを支援する。</p>	<p>ア 「障がい理解 HR」において、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事とともに参加することの大切さを教え、それに必要な配慮を行う。</p> <p>イ・共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSTを取り入れた自立活動の授業を行う。 ・学校説明会等において、共生生徒が中心となり、「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。 ・自己肯定感育成のための活動を計画する。 	<p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに前年度以上。[生徒79.4%、保護者77.8%]</p> <p>イ・農作物の収穫 共生生徒による信太ファームで農作物を栽培し、作業を通して共生生徒の自己肯定感や達成感を持たせる。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」[生徒84.2%、保護者79.0%] (◎)</p> <p>イ・共生推進教室在籍3年生3人中2名就職内定、1名福祉事業所に決定。1年生は年間1～2回、2年生は22回以上、現場実習を経験。内部努力と外部機関からの紹介で実習先を確保している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽出授業、クラスでの活動、部活動で充実した学校生活を送っている。 ・学校説明会等において、共生生徒が自らの言葉で語る場面を設け中学生や保護者に共生推進教室のアピールができた。 ・農作物の収穫やその調理で自己肯定感と達成感を得た。

府立信太高等学校

<p style="text-align: center;">5. 「チーム信太」体制づくり</p>	<p>ア 教職員のアイデアの発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>イ 働き方改革を推進。</p>	<p>ア 職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校目標を実現するための教育課程を編成する。 ・経営推進費への応募、校長マネジメント経費活用など、学校運営アイデアを募集する。 <p>イ 業務の効率化について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月あたりの超過勤務時間 80 時間以上の人数を減らす。 ・休暇休業制度の普及と振替休日取得の声掛け 	<p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。[71.0%]</p> <p>イ・超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率を昨年度以下。[5.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性育児休暇取得促進、遅出・早出勤務や年休が取りやすい職場の雰囲気づくり。 	<p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」61.7% (△) 内発的な提案を期待するだけで、積極的に問いかけてはいないところが、この結果の原因と考えている。</p> <p>イ・業務の平準化をねらいとして分掌と委員会の改変を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率 [5.2%] (○) ・男性育児休暇取得 1 名、遅出・早出勤務 3 名、育児時短 2 名。(○)
--	--	--	---	---